

日本関連在外資料調査研究事業基本計画

平成22年11月16日

人間文化研究機構

改定 平成23年5月23日

改定 平成25年3月25日

改定 平成25年5月29日

改定 平成26年3月26日

1 目的

海外諸国の大学や諸機関が所蔵する日本関連資料について、人間文化研究機構（以下「機構」という。）の大学共同利用機関（以下「機関」という。）及び関係大学・研究機関が連携協力し、海外諸国の関係機関との協力のもと、組織的、総合的な共同調査、研究を実施し、その研究成果を公開し、国内外の日本文化研究の発展・深化に貢献することを目的とする。

2 調査研究の実施計画

日本関連在外資料調査研究事業（以下「事業」という。）は、本基本計画及び日本関連在外資料調査研究委員会（以下「委員会」という。）が策定する実施計画に基づき実施する。

3 事業の計画期間

この事業の計画期間は、平成22年11月16日から平成28年3月31日までとする。

4 調査研究対象在外資料

この事業における調査研究の対象とする在外資料は、次のとおりとする。

- 1) シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代（19世紀）に日本で収集された在外資料
- 2) 近現代における日本人移民とその環境に関する在外資料
- 3) バチカン図書館所蔵のマリオ・マレガ収集文書

5 事業の実施体制

1) 事業の総合調整

委員会は、事業の総合的推進を図るため、事業の進捗状況を把握し必要な調整等を行う。

2) 計画期間における事業の実施体制は、次のとおりとする。

- I) シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代（19世紀）に日本で収集された資料についての基本的調査研究

(1) 総括機関及び総括責任者

総括機関：国立歴史民俗博物館

総括責任者：日高 薫 教授

(2) 実施機関及び分担事業

① 国立歴史民俗博物館

a) 研究課題：ミュンヘン国立民族学博物館の画像つき詳細目録の作成

研究代表者：日高 薫 教授

対象機関等：ミュンヘン国立民族学博物館他

b) 研究課題：ライデン大学・ライデン国立民族学博物館などオランダにおける日本コレクションのまとまった資料群について、画像つきの目録の作成

研究代表者：青山 宏夫 教授

対象機関等：ライデン大学、ライデン国立民族学博物館他

c) 研究課題：北米モース・コレクションの現状調査、カリフォルニアオークランド博物館・カナダ文明博物館・ロイヤルオンタリオ博物館の資料調査

研究代表者：大久保 純一 教授

対象機関等：ピーボディ・エセックス博物館、オークランド博物館他

d) 研究課題：異文化間の交流という観点から在外日本関連資料の持つ意味の検討及び情報共有方法についての検討

研究代表者：安達 文夫 教授

対象機関等：限定しない

e) 研究課題：ブロンホフ、フィッセル、シーボルトコレクションに関する総合的な目録の作成

研究代表者：松井 洋子 教授（東京大学史料編纂所：国立歴史民俗博物館共同研究員）

対象機関等：ライデン国立民族学博物館他

f) 研究課題：アレクサンダーとハインリッヒが収集した日本関連資料、書籍、記録類および彼らが収集に関わった日本関連コレクションの所在とその概要の把握

研究代表者：宮坂 正英 教授（長崎純心大学：国立歴史民俗博物館共同研究員）

対象機関等：ブランデンシュタイン家、ボッフム大学他

② 国文学研究資料館

研究課題：オランダ国ライデン伝来のブロンホフ、フィッセル、シーボルト蒐集日本書籍の調査研究

研究代表者：鈴木 淳 名誉教授

対象機関等：ライデン国立民族学博物館、ライデン大学図書館他

③ 国立民族学博物館

研究課題：ロシアと北欧における日本関連アジア資料の調査研究

研究代表者：佐々木 史郎 教授

対象機関等：クンストカメラ、エルミタージュ美術館他

(3) 連携実施機関及び分担事業

東京大学史料編纂所

研究課題：イエール大学をはじめとする米国大学所蔵日本関連資料の再活用による日本研究の推進

研究代表者：近藤 成一 教授

対象機関等：イエール大学、ハーバード大学他

II) 近現代における日本人移民とその環境に関する在外資料の調査と研究

(1) 総括機関及び総括責任者

総括機関：国際日本文化研究センター

総括責任者：劉 建輝 教授

(2) 実施機関及び分担事業

①国際日本文化研究センター

- a) 研究課題：南米（ポルトガル語圏）における日本人移民の生活実態に関する資料の調査・研究

研究代表者：細川 周平 教授

対象機関等：ブラジル移民史料館、サンパウロ人文科学研究所他

- b) 研究課題：朝鮮半島における植民地統治および日本社会に関する資料の調査・研究

研究代表者：松田 利彦 准教授

対象機関等：韓国国立中央図書館、国家記録院他

- c) 研究課題：中国全土における近代日本人の経済・社会・文化等の活動に関する資料の調査・研究

研究代表者：劉 建輝 教授

対象機関等：東北師範大学、黒龍江大学他

②国立歴史民俗博物館

研究課題：南北アメリカの移民関係資料ならびに移民社会に関する研究

研究代表者：原山 浩介 准教授

対象機関等：全米日系人博物館、ハワイ大学、ペルー共和国の関係機関他

③国立国語研究所

研究課題：ハワイと北米に渡った日系移民音声資料を用いた社会言語学的研究

研究代表者：朝日 祥之 准教授

対象機関等：ハワイ大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校他

(3) 連携実施機関及び分担事業

東京大学東洋文化研究所

研究課題：近代日本文化財保護政策関係資料の調査と研究

研究代表者：平勢 隆郎 教授

対象機関等：天津大学、復旦大学他

京都大学人文科学研究所

研究課題：植民地期台湾・「南洋」における日本人社会に関する資料の調査・研究

研究代表者：籠谷 直人 教授

対象機関等：台湾大学図書館、フィリピン共和国・インドネシア共和国の図書館他

III) バチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書の保存・公開に関する調査・研究

(1) 総括機関及び総括責任者

総括機関：国文学研究資料館

総括責任者：大友 一雄 教授

(2) 実施機関及び分担事業

①国文学研究資料館

- a) 研究課題：バチカン図書館マリオ・マレガ資料の概要調査と調査を通じた保存管理に関する国際協力研究

研究代表者：青木 睦 准教授

- 対象機関等：パチカン図書館他
- b) 研究課題：マリオ・マレガ資料のデジタル化と公開システム開発に関する研究
研究代表者：太田 尚宏 准教授
対象機関等：パチカン図書館他
- c) 研究課題：マリオ・マレガ資料の目録記述のための基礎的研究と目録記述
研究代表者：佐藤 晃洋（大分県立先哲史料館館長）
対象機関等：パチカン図書館他
- d) 研究課題：マリオ・マレガ研究
研究代表者：シルヴィオ・ヴィータ 教授（京都外国語大学）
対象機関等：パチカン図書館他
- e) 研究課題：切支丹史料・切支丹に関する研究
研究代表者：松井 洋子 教授（東京大学史料編纂所）
対象機関等：パチカン図書館・大分県立先哲資料館・臼杵市立歴史資料館他

6 国際連携・協力の推進

総括機関、実施機関及び連携実施機関は、実施計画に沿って、資料を所蔵する海外機関と協議し、連携協力して日本関連在外資料調査研究を進める。

機構は、調査研究を進めるうえで必要な場合には海外機関との間で研究協力協定等を結ぶものとする。

7 年次報告等

総括機関の総括責任者は、この基本計画に基づく毎年度の研究及び事業の進捗状況について、委員会に報告する。委員会は、必要と認めるときは、実施計画の変更等の措置を講ずるものとする。

8 評価

1) 委員会は、平成24年度終了後速やかに当該期間までの調査研究成果等を評価し、その結果に基づき事業の今後のあり方を検討し、必要と認めるときは、実施計画の変更等の措置を講ずるものとする。

2) 機構は、事業最終年度に本事業の評価委員会を設置し評価を行う。

評価委員会は、調査研究成果等を評価し、その結果を委員会に報告するものとする。

委員会は、評価結果に基づき次期計画の方針等の検討を行うものとする。

9 調査研究費の配分・交付及び経理

1) 配分・交付

(1) 機構は、総括機関及び実施機関に対し、実施計画に基づく調査研究に要する経費を配分する。

(2) 機構は、連携実施機関に対し、実施計画に基づく調査研究に要する経費の一部を、当該連携実施機関との協議に基づき交付する。

2) 経理

総括機関、実施機関及び連携実施機関は、1)により機構から配分・交付された経費について、機構の定めるところにより他の経費と区分して経理し、毎年度終了後速やかに調査研究の実績及

び経費の支出の明細を機構に報告し、機構の承認を得るものとする。

1 0 資料等の帰属

本事業実施に伴い収集した資料等は、収集した実施機関又は連携実施機関に帰属する。

1 1 研究成果等の取扱い

- 1) 収集した資料及び調査研究成果等は適正に管理し、研究者等の利用に供し、公開に努めるものとする。
- 2) 研究成果を発表する場合には、「人間文化研究機構日本関連在外資料調査研究」によることを明示するものとする。